

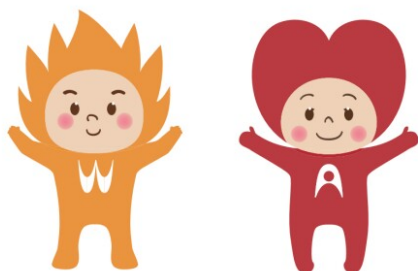
きっと見つかる、ずっとつながる笑顔の和

第8号
2016年
1月

わげん便り



法人名変更



この度社会福祉法人 相模更生会は平成27年12月1日付にて社会福祉法人ワゲン福祉会と法人名変更を行いました。

これまで同様医療と福祉を車の両輪として、法人理念に基づき事業運営を行い発展を続けています。何卒宜しくお願い申し上げます。

新年のあいさつ

平成二十八年明けましておめでとう。元気で元旦を迎えられ誠に喜ばしく、本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げる次第である。

さて昔の言葉に「一年の計は元旦にあり」と言われている。これによって本年も意義ある活躍が出来るように出発することになった。医療福祉を以って社会に貢献すべきワゲン福祉会は、如何にしたらその使命を果たせるかを考え、平成二十六年及び二十七年にかけて慎重な計画のもとに、物心両面について大きな改革を行った。それには必然的にそれなりの経費を要し、厳しい法人経営を余儀された。その余波は多くの方々にも影響して大変に苦労した。しかし改革は苦なくしては成就しない。ただ今回の改革は、法人としては急変する時代への対応とともに、将来展望を視野に入れた計画だったので、大きな目から見れば一過性の問題であり、後の歴史が評価してくれると思う。したがってこの際は一丸となってこの難局を切り抜けねばならない。かような現状に直面して次のことが浮かんた。

昔、一休和尚が「元旦や めでたくもあり
めでたくもなし」と詠んだ。これは深い意味が含まれていると思われるが、それはさておき凡人は単に言葉通りに一年の間には良いこととそうではないことがあるということ、また良い年とそうでない年があるとも思われる。

これについて私は大変めでたくない元旦を三回経験したことがある。若い頃病気になる、三年間寝たきりの生活をした。「あらたまの春はかえれども、月花の便りをよそに、一人病床にある身にとっては、また悲しみが一つ増えるのみ」その当時は既に涙も枯れ果てていた。それでも二十一才を境に徐々に回復に向かった。

あれから七十年、良い年もそうでない年もなんとか切り抜けて今日に至った。現在は毎年「感謝」が一つずつ増えてゆくのみ。前述の当法人も、めでたい年とそうでない年を経て、立派な法人が確立される。特に目の前には、二十八年以降米軍から土地返還が予定されて、前途は極めて明るい。幸ある新年を祈念してあいさつとする。



理事長 座間 富蔵

ワゲン福祉会 部門長あいさつ

高齢福祉部門



座間 研一

明けましておめでとうございます。今年申年(さるどし)が皆様にとって幸多い一年でありますよう願っています。

さて当法人は昨年12月に名称変更をいたしました。ワゲングループの中心となる「ワゲン福祉会」になりました。今年も昨年来進めてまいりました、法人本部棟の設置、人工透析病棟、MRI設備新設、保育事業の新設と地域社会に求められ、また貢献できる事業を展開してまいります。団塊の世代が後期高齢者になる2025年を見据え、医療にも介護にも保育にも当法人は力を入れていきたいと思っております。

医療・介護の在り方が大きく転換してきています。病院も高齢者施設も、各地域で実情に合わせた地域包括ケアシステムの構築への参入が望まれるところです。高齢福祉部門では入所者の重度化が益々進んでまいります。各施設間で情報の共有を図り、また医療・病院とも密なる連携が必要とされます。従来の病院は病院、特養は特養という時代ではないことを法人職員一同認識しなくてはなりません。今年も人材の育成とともに、職員一同、より質の高い介護を目指していききたいと思っております。

医療部門



井出 道也

新年あけましておめでとうございます。皆様の幸多き一年を祈念致します。相模更生病院は昨年の内科医離職に伴う困難な運営状況の中、職員の団結力と法人の尽力により苦境を乗り越えてきました。平成28年は臨床戦力充実の目途が立ちこれまでの経験を糧に急成長を遂げる機は熟しました。春にはMRI設置や血液透析室開設など新しい事業展開が予定されており、まさに病院が大きく飛躍する記念すべき一年となるべくさらなる努力を継続して参ります。

ワゲン療育病院長竹は、開設3年目となります。徐々に利用者様も職員も増えて参りました。できるだけ早期に、40床の満床に近い運用と、さらには60床への増床を実現させたいと存じます。そのためには、さらなる職員の確保や、医療・看護・療育・介護の質の向上を図ります。暖かい充実した重心入所施設へと成長するため、皆様のご支援、ご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

総合在宅支援部門



平田 則子

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。今年も、総合在宅部門にとって、新しい門出になる年と考えております。麻溝・小山地域包括支援センター、居宅介護支援事業所ワゲン麻溝・ワゲン中央、昨年9月に開設致しました訪問看護ステーション、そして遠く離れておりますが、札幌に居宅介護支援・訪問介護の事業所があり、総勢27名在籍しております。地域包括システムが進む中、医療と介護の連携が重視され、その為にも多くの研修を重ね、職員の質の向上を目指していききたいと思っております。

部門としては職員のコミュニケーションを図ると共に、法人の理念である「和顔愛語」に添って、在宅支援が出来るよう、多くの方の協力を得ながら、お互い力を合わせて頑

総合相模更生病院70周年記念

法人理事・総合相模更生病院長

井出 道也



昭和20年太平洋戦争の終焉により相模原地区の旧日本陸軍の広大な軍事施設は米軍に撤収され、戦後在日米軍相模総合補給廠として使われてきました。この時地域の篤志家の方々の支援により旧軍医療施設を病院として存続することとなったのが総合相模更生病院の始まりです。当時地域には医療機関がなく、社会福祉法人として超急性期から慢性期まで何でも診る自己完結型病院として地域の発展と共に歩んできました。そして平成27年11月26日、目出度く創立70周年を迎えました。

当院は、JR横浜線相模原駅前に位置する225床のケアミックス病院で、一般病棟168床、介護療養病棟57床を有しています。現在年間手術件数は約1300件、年間分娩件数は約600件を数え、一般急性期病院として精力的に診療を行っています。また地域医療構想が具体化しつつある今、2次医療圏の中での中間的役割はこれからの中小病院の使命と認識し、一昨秋より地域包括ケア病棟を開設、地域包括ケアシステムの一翼を担っています。

創立時とは本邦の医療を取り巻く環境は激変しました。医療界に馴染みのなかった「連携」という言葉が重要となり、当院も他の病医院や施設との連携を深め地域完結医療を推進して参りました。象徴的事業として平成19年病院新築時に、薬剤合成装置を併設した神奈川県北部初のPET - CTを開設しました。日本医科大学放射線科教室の精鋭医師団に読影を依頼し、PET - CTは高額医療機器の共同利用のコンセプトに沿い、広範囲の地域の医療機関に大いにご活用頂いています。

臨床各科は、いずれも一騎当千の中堅医師たちが最新の知識と技術をもって、全力で地域医療を支えています。但し新臨床研修医制度や専門医志向傾向の狭間で、現在多くの中小病院は一般内科医不足に喘いでいます。当院も内科常勤医が充足されず現職の内科医師に負担がかかり、外科系診療各科に所属する常勤医有志たちの献身的な協力で補填する状況でしたが、今ようやく地域の内科診療の核となる高い志の内科医が集まりつつあります。

こうした厳しい時期に、当院の看護部、各診療部（放射線科、臨床検査科、リハビリテーション科）、薬剤部、栄養科そして各事務部門まで職員は皆「信頼と調和」の基本理念の下、懸命な努力で各々の職責を全うし、文字通り一致団結して苦境を乗り越えて来ました。勤務者のひとりひとりがかけがえのない財産であり、70年の歴史と伝統に培われた、地域に誇れる当院最大の長所であると感じています。

相模原市は、人口急増に伴い平成22年、全国で19番目の政令指定都市となりました。米軍施設の一部日本返還により小田急線延伸計画が進んでおり、将来当院周辺は新しい市の中心部となり発展が期待されています。政令市となっても市民病院不在という特殊な医療環境の中、当院は二次救急病院の輪番制で地域救急医療の一角を担うとともに、今後社会保障制度改革が進む時代の要請に沿い、地域社会に貢献していくことを念頭に日々の診療に邁進していきます。



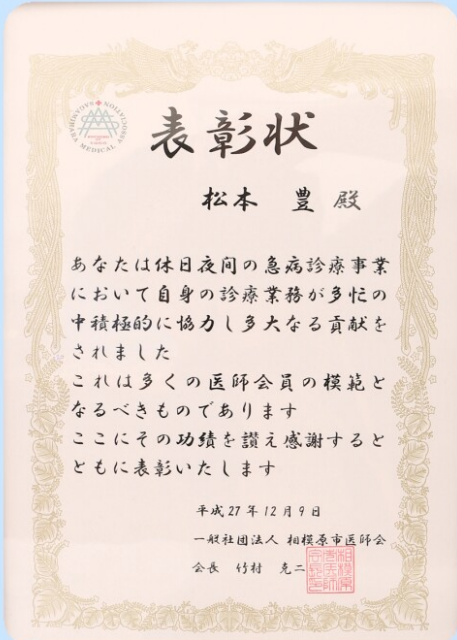
1960年代 病院航空写真



1970年代 病院航空写真

相模原市医師会表彰

総合相模更生病院の外科部長の松本豊医師が相模原市医師会より表彰されましたのでご紹介いたします。



- (Q1) 更生病院へ勤務して何年目か教えてください。
 (A1) 平成12年の春よりですので、来春で16年になります。
- (Q2) 先生の専門科や専門分野について教えてください。
 (A2) 消化器外科と消化器内視鏡検査・処置を専門としております。
- (Q3) 今後の抱負を教えてください。
 (A3) 仕事は楽しく、厳しくが信条です。医療は1人では出来ません。今後もより良いチームが作れる様、努力していきたいと思えます。
- (Q4) 先生の趣味などについて教えてください。
 (A4) ジョギングや気分転換の映画鑑賞（ほぼ100%アクションものです）音楽はJAZZ、愛読書は松本清張、お酒は1人でも大勢でも呑むのが大好きです。

松本先生の今後の方でもおっしゃっていましたが、楽しく厳しく仕事に向き合っている先生は患者さんからの信頼も厚く、更生病院だけではなく、地域から愛されているからこそこの表彰だと思いま

イベント・お知らせコーナー

更生病院

70周年パーティーを終えて

2015年11月5日、総合相模更生病院にてさくらの会（更生病院職員会）主催で70周年記念パーティーが行われました。当日は『70周年記念特別編成バンドWAGENZ』がミニライブを行い、大変盛り上がりしました。若いメンバーでのバンドは更に勢いのある未来を感じさせてくれました。WAGENZは薬剤部と放射線科からなるバンドですが今後もイベントがあれば活動していきたいと思えます。

お料理は、栄養科長の蛸子さんを中心に病院への給食提供を行っている安田物産にお手伝いをして頂いたり、職員が買い出しに行ったりと手作感あふれる暖かいパーティーとなりました。オリジナルキーホルダーの記念品も贈られ2時間の楽しい時間はあっという間に終わりました。

ご協力頂いた皆様及びさくらの会の皆様に心より感謝し、更なる発展に勤めたいと思えます。



ワゲン新横浜 ワゲン祭りを終えて



今年度もたくさんの御家族やボランティアの方が来訪され、ワゲン祭りを開催することができました。1階地域交流スペースでのイベントは洗練された和太鼓、職員や御利用者も参加した盆踊り、学生の方々の若さ溢れる沖縄舞踊の3組のボランティアの方々に締めを飾って頂き、刺激のある楽しいお祭りでした。来年度も皆さんの思い出に残る楽しい時間を提供できるように頑張ります。

相陽台ホーム ひまわり会・相陽祭



8月に職員親睦会「ひまわり会」を開催しました。今回は、うかい亭「うかい鳥山」での食事会を行い、普段とは違う豪華な料理に職員は舌鼓。メインは石焼きのステーキ!とても美味しく、会話も弾みました♪

11月に「相陽祭」を開催。ご利用者様・職員の作品展示、職員による三味線・ハーモニカ・バンド演奏、屋台での握りずし、屋外での豚汁・ぜんざいの提供等、大盛況に終わりました。次回のイベントに乞うご期待ください。



第26回 東日本国際駅伝に参加して

チーム 更生どーびん



(放射線技師 氣賀澤)

たった5km走るだけが辛かったけれど、苦手なことや辛いことでも努力すれば達成できるということを改めて学びました。

(放射線技師 小林)

最初に5km走ると聞いた時は正直驚きましたが、チーム練習の甲斐あり皆無事完走!達成感でいっぱいになりました。

(放射線技師 豊嶋)

足を引っ張らないよう練習するうちに走ることに熱中してしまいました。チーム全員でタスキを繋げて、完走できて嬉しかったです。

(放射線科 看護師 穴戸)

初めての駅伝で、とても苦しく歩いてしまいましたが、チームのみんなの応援でゴールまで行けました。

チーム ワゲン



(ワゲン新横浜 ケアワーカー 泉水)

「光る汗、Tシャツ…。駅伝に参加して忘れかけていた青春という響きがよみがえりました。」

(相陽台ホーム 介護支援専門員 篠崎)

周りの雰囲気を楽しみながら走ることが出来ました。

(相陽台ホーム 管理栄養士 大野)

疲れたけど楽しかったです。また機会があれば頑張ります。

(ワゲン麻溝 介護支援専門員 中村)

何度もリタイヤが頭をよぎりましたが襷をつなぐ使命感と応援で走り切りました。

第25回 日本医療薬学会年会 に参加して

ワゲン中央
黒澤 慎吾



平成27年11月22日(日)第25回日本医療薬学会年会にシンポジストとして参加してきました。ケアマネジャーは利用者の代弁者でもあるので、利用者から聴取した意見をそのまま薬剤師にお届けした形になります。

発表に至るまでに、薬剤師をはじめとした多くの職種と関わる事ができたので、今後の包括ケア・地域連携の足掛かりにもなったのではないかと感じています。今後も地域力を高めていく為に、積極的に連携を図ってまいります。



ワゲン中央及び訪問看護ステーション移転

ワゲン中央及び訪問看護ステーションは、平成27年12月1日に現在の場所(病院より西門方面7~8分程歩いた相模原4丁目)に移転しています。

ワゲン中央は、中央区中央の「相模原市消防本部」側から、中央区相模原4丁目のビルの階に「更生病院・訪問看護ステーション」と同居することになりました。現在は3名のケアマネで業務を行っておりますが、来年4月からは産休明けで復帰する職員を合わせ4名となります。消防隊員の朝の号令や訓練の音が聞けなくなりましたが、より一層気を引き締めてお客様を支えていきたいと思っております。

訪問看護ステーションは、H27年9月より病院のC棟で3人の看護師で設立されました、ワゲン中央と連携を行いここから本格的に、地域・市民に向かって、訪問看護ステーションの底力を示していきたいと思っております。信頼とやさしさをモットーにして病院と連携していきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



小山高齢者支援センター移転

平成27年9月1日に小山高齢者支援センターは、総合相模更生病院B棟1階より、相模原市中央区宮下1-1-21に事務所を移転しました。新事務所の場所は、向陽小学校の近くの万寿鮎さん(お寿司屋)の隣にあった塩野商店(自転車屋さん)の跡地になります。

新事務所には、畳16畳の和室をフリースペースとして開放しており、地域活動の場として住民の方が利用しています。

より小山地区の中心に近い住宅地のそばに事務所を移転したこともあって、地域住民に立ち寄りやすい親しみのある事務所を目指しております。



ワゲン療育病院長竹 ミシン寄付のお願い

この度ワゲン療育病院長竹では、ご家庭で使わなくなったミシンの寄付を募っています。ご家庭で眠っているミシンはありませんか?使わなくなって押し入れにしまいこんでいるミシンはありませんか?もしございましたら、是非、当院にご連絡いただければと思います。職員やボランティアが入所者様の縫い物等に使用します。事務部(042-784-7227)までご一報お願いします。

編集後記

いよいよ2016年がスタートしました。今年、リオ五輪も開催を控えさく年末同様日本人の活躍が期待されていますがグループとしてもそれぞれの部**もん**に分かれ専門性をい**かん**なく発揮し飛躍の年となるように引き続き**後方支えん**を行ってまいります。

法人広報
有馬、俵、佐藤

2016.1.Vol.8

■編集：ワゲン福祉会 広報 ■お問い合わせ先：〒252-5225 神奈川県相模原市中央区小山3429
■mail：wagenkouho@wagen.or.jp ※わげん便りは社会福祉法人 ワゲン福祉会で出版されていま